

教科等研究会（中学校特別活動部会）

平成28年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

ともに生きる力をはぐくむ特別活動のあり方

～学級活動における「分かる・できる」「楽しい」授業をめざして～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期 日	人 数	場 所	期 日	場 所	授業者	期 日	場 所	授業者	期 日	場 所	講 師
6月 9日	16名	甲佐 小学校	10月 28日	広安西 小学校	金子 裕美 教諭	11月 8日	矢部 中学校	堤 佳代 教諭	1月 20日	甲佐 中学校	桑野 淳二 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 主題設定の理由

教育をとりまく今日的課題の一つとして、社会や家庭の教育力の低下があげられる。子ども達に基本的な生活習慣や態度が身についていない、他者との関わりが苦手である、自制心や規範意識が十分に育っていないなどが指摘されている。少子高齢化・高度情報化等により、人間関係が希薄になり、社会性が薄れ、自己中心的で生命を軽視する青少年の問題行動も発生している。

「ヒトは、人と人との豊かな関わりの中で豊かな人間性・社会性が備わっていく」ことを考えれば、よりよい集団をめざし、良好な人間関係を育む特別活動の果たす役割は大きい。学校教育の中で、唯一社会性の伸長を図ることを目標にした特別活動は、今後ますます重要視されていかなければならない。社会性を育成していくためには、集団での多様な体験活動が不可欠である。

上益城郡特別活動部会では、自己決定・集団決定したことを「為すことによって学ぶ」ことを主眼とし、「社会性＝ともに生きる力」をはぐくむために、創意工夫した望ましい集団活動の創造によって、子ども一人一人のよさを引き出し伸ばす実践の積み重ねを目指すこととした。

② 主題の分析

(ア) メインテーマについて

「生きる力」（社会において自立的に生きるために必要とされる力）を育てるにあたって、自分に自信が持てず、自らの将来や人間関係に不安を抱えている子ども達の現状を踏まえると、コミュニケーション（意思伝達）や感性・情緒・知的活動の基盤である国語をはじめとした言語の能力の重視や体験活動の充実を図ることにより、子ども達に、他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で、これらとともに生きる自分への自信を持たせる必要がある。そのためには、一人一人が自己実現を図り、集団のなかで互いによさを認められ生かされることで、自己肯定力が高まり、自分への自信も高まってくると思われる。

「ともに生きる力」とは、望ましい集団活動を基盤とする特別活動においては、「ともに考え、ともに表現することによって、集団としての考えや表現を生み出す力」である。

具体的には、学級の課題について、子ども同士がお互いの立場を尊重しながら、自分の考えを主張し話し合う中で、課題解決のための目標と具体的な手段・方法を集団決定し、協働して集団活動を創造していく中で培われていく「ともに生きる力」である。「ともに生きる力」を構成する主な能力は、課題発見力・話し合い力・人間関係構築力・問題解決力・規範意識・役割意識である。

新たに作成が進められている新学習指導要領では、「アクティブラーニング」と「授業のユニバーサルデザイン」がキーワードになっている。友達と共に意見を出し合いながら合意形成を図り、意義ある活動を生み出していく特別活動を通して、『ともに生きる』『分かる・できる・楽しい』を追究していくことは、大変意義深いと考える。

(イ) サブテーマについて

学級活動における「分かる・できる・楽しい」授業とは、以下のように捉え研究を進める。

サブテーマの分析	めざす児童の姿	研究の視点
学級会活動における「分かる」とは	①話し合いの目的や内容が分かること。 ②話し合いの方法（質問・意見の出し方）が分かること。	「分かる・できる・楽しい」学級活動 <視覚化> ○合意形成のプロセスを大切にする。

学級活動（学級会）における「できる」とは・・・	学級活動の活動を通して適切な評価活動を行うことにより、自他のよさや達成感を実感し、「できる」という自覚を持つこと	（板書の構造化） ○個人と全体の思考の可視化 <焦点化・共有化> ○学級目標、提案理由を意識させる。 ○話し合う内容（話し合いの柱）、話し合う目的（提案理由）を明確にする。 ○全員参加型の工夫
学級活動（学級会）における「楽しい」とは・・・	①話し合いで支持的風土ができていて楽しい。 ②実践活動で一人ひとりのよさが発揮できる話し合いだから楽しい。	

※「分かる・できる・楽しい」という一体化された表記から、両者は「分かる・できるから楽しい、楽しいから分かる・できる」という相互関係で研究を進める。

③ 研究の仮説

仮説１＝学級活動（学級会）における「分かる・できる」授業実践を工夫することで、学び合いや高め合いの態度が形成され、「ともに生きる力をはぐくむ」ことができるだろう。

仮説２＝魅力的な議題や、一人一人の意見が大切にされた「楽しい」と思える学級活動（学級会）を展開することで、よりよい人間関係を築くことができ「ともに生きる力をはぐくむ」ことができるだろう。

(2) 成果と課題（○成果・●課題）

○学級活動の時間に、毎時、個人思考、集団思考、集団決定の各場面設定を設定しており、全員が積極的に参加できる話し合い活動ができた。

○生徒会役員選挙を視野に入れ、長期的な展望に立って学級活動を計画しているため、学級活動が計画的に、実効性のある取り組みができています。

○今回のテーマを生徒会選挙を見据えたものにしたため、生徒会選挙が一部の生徒だけでなく、全員のものになるという意欲付けにつながった。

●導入で書かせたことが、その後の展開にそのままつながれば分かりやすかった。

●全体での発表が、発表しただけで終わったため、話し合いの深まりがなかった。

4 実践事例（矢部中学校 １年２組 ３２名 指導者 堤 佳代 教諭）

(1) 授業の概要

生徒の実態	○学習に対しては、まじめに取り組むことができる。 ○朝の会や帰りの会では日直が司会をし、協力的に会を進めることができている。 ○学級の係や委員会活動も責任を持って取り組む。また、文化祭の合唱コンクールでは、指揮者や伴奏者に自ら意欲を持って立候補する者もいて、学級の団結力も高まっている。 ○一方で、自分たちで学級や学校をより良くしていこうとする姿には弱さが感じられる。自ら自覚しより良い行動を取るまでには到っていない。
本時の研究の視点	<計画> ○生徒会役員選挙に向けて、一人一人が生徒会の一員としての自覚を持ち、学校をよくするためにどうするかを考えさせる。 ○理想の学校について考えさせることで、現在の学校の課題を見つけ、改善する方策を考えさせる。 ○個人思考の場と協働解決の場を設け、どのようにすれば「理想の学校」をつくれるか、考えを練り上げさせる。 <活動> ○現在の中学校の実態を個人で考え、よい点、課題点を見つける。 ○「理想の学校」とはどのような学校かを考え、現状を把握し、課題と改善点を見つける。 ○個人で考えたものを班で出し合い、課題を共有し、改善策を考える。 ○班で出されたものを共有し、「理想の学校」にするためには一人一人がどのように行動すればよいか、考え、実践する意欲を高める。 <振り返り> ○学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、今後の学校生活に活かそうとする態度を育てる。 ○自己の役割を理解し、他の生徒の意見を尊重しながら、協働してよりよい学校づくりを目指す態度を育てるようにする。

授業者自評	○今回の授業はこれまで担任をしたときには毎回実施している内容である。生徒自身にどのような学校にしたいのかを考えさせたいと思っている。そして、生徒会役員に立候補する授業へとつなげている。 ○1年生なので、「理想の学校」について深く考えずに「楽しい学校」のように書いているが、2年生になると「学力が高い学校」などと、内容のレベルが上がってくる。 ○この授業を行うと、集団の実態が分かるという側面もある。
協議の内容	○導入のウォーミングアップでは、授業の方向性をはっきりしていてよかった。また、否定的な反応がなかったのもよかった。一方で、生徒自身の現実を見つめさせることがあってもよかったのではないかな。 ○「理想の学校」を個人の願望としている生徒が多かった。しかし、班や全体で協議を深めるうちに学校全体のこととして考えられるようになった。 ○個人で考え、班で出し合い、討議することで、子どもたちの考えが深まっていた。全体の場合でも質疑や討議があると、さらに考えが深まっていたのではないかな。 → 授業者は計画段階では検討していたのだが、時間の都合もあり、発表場面でとどめた。 ○班での話し合いで、付箋を使ったグルーピングが良かった。生徒の思考が整理され、深まっていた。 ○班での意見を紙にまとめさせたのが良かった。その発表が分かりやすかったが、意見を出しただけだったので、意見交換の場があってもよかったのではないかな。 ○生徒会選挙前のこの時期に、この実践はとてもよかった。 ○話し合うだけで終わるのではなく、今後の活動が大切である。 → 授業者としても、もちろん、今後の活動で生かしていくつもりである。特に、生徒会役員選挙を控えているので、この授業で考え、話し合ったことを実行する意欲のある生徒に立候補してもらいたい。これまでも、この授業を受けて、立候補をする生徒がいた。
まとめ 七滝中央小 大竹紳一郎 校長先生	○教師の指示や、生徒に対する対応、生徒の言葉に対する反応、返しのタイミングなど、これまでの経験が生かされており、大変良かった。普段の教師と生徒との人間関係の良さが見られた。 ○「理想の学校」という共通のテーマについて、生徒なりにしっかりと考えていた。様々な意見が出てきたが、最後は教師の意図に沿った形で収束していった。教師が授業のめあてをしっかりと考えていた成果である。 ○今回の授業は、これまで何度も実践を重ねたものであるということで、様々な点で参観した先生たちにとっても有意義なものであった。



班別討議の様子



班ごとでの発表の様子

(2) 学習指導案

(1) 目標

○自分たちの考えた「理想の学校」に向けて、自分のできることを考える。

(2) 展開

学習 過程	学 習 活 動	形態	指導上の留意点及び評価 《 》：評価方法	備 考
導入 (5)	1 矢部中学校ってどんな学校か書く。 2 ペアで書いたものを読み合う。	個人 ペア	・制限時間をかけて書かせる。 ・書いた内容をペアで言わせる。	シート
展開 (1)	3 本時の目標を確認する。	一斉		
	目標 「理想の学校」について考えよう。			
(7)	4 理想の学校はどんな学校か付箋に書いていく。	個人	・例をいくつか示して生徒が書きやすい雰囲気を作る。	付箋
(13)	5 班をつくり、付箋に書いたものを出し合い理想の学校について話し合う。	班	・出された意見を批判しない。 ・関連して思いついたものは意見を書き加えてもよい。 ・自分の書いたものは、全部出す。 以上のことをルールとして意見を出し合わせる。	画用紙 マジック
(4)	6 班で考えた「理想の学校」をまとめる。	班	・班でまとめた意見を提示させる。	
(10)	7 出てきた「理想の学校」を共有する。	一斉	・教師がリーダーとなって、各班の理想の学校を共有していく。	
まとめ (10)	8 矢部中学校を「理想の学校」にするために自分は何をしていくか考える。	個人	・誰かに作ってもらうのではなく、自分で作っていく意識をもたせるようにしたい。 学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持つ。(関) 学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚する。(思) 《行動観察、ワークシート》	シート

